

市街地



スロー社会とは移動社会

モード切替車

水陸両用低速自動運転車

病院・学校・映画・デパート
・美術館・コンサート・各種
遊び・グルメ・ビジネス。

高齢者や障害者 & 子供が
24時間自由に往来し、種々
の場所に出入りし、ありとあ
らゆる場所が活性化する。

誰でもがいつでも行ける場所



自殺者の大幅減

誰でもが24時間集う社会

スロー社会とは誰でも幸せになれる社会

恋愛・結婚・子育て加速社会



大家族復活

マイアバター(AI)と会話
をしながら、仕事・趣味・各種
つながり連絡等を楽し行う。



AIとの会話でビジネス加速社会

「水陸両用低速自動運転車」は
交通安全・犯罪安全・災害安全が
あり、海や湖で過ごすことができる。

災害死亡者大幅減

社会保険料大幅減

自動介護システムで負荷大幅減

スロー社会とは地方社会

モビリティの自動運転化に関する発想の転換が必要です。

稀に発生する重大事故を払拭できない以上は、自動運転化のためには、日常的に事故故障とお付き合いをする覚悟が必要であり、もし何かに衝突しても、怪我をしない安全な低速での自動運転化に切替える必要があります。

「自動運転のレベル4の実証実験の成果」を集大成させる意味で、「低速自動運転と人が運転するモード切替車」を提案致します。

事故故障前提なので、現状の技術で十分可能であり、コストUPもほとんどなく、現行の交通システムによくマッチし、また使わなくてもよい補完機能であり、マイナス面が全くなく、関係省庁様、全国の自治体様及び全車メーカー様は、早急に準備をされますことをお願い致します。

そして、その次の展開として、交通安全・犯罪安全・災害安全の「水陸両用の低速自動運転車」の普及により、誰でもが幸せになれる社会が実現し、また郊外（田舎）も市街地（都会）も活性化し、そして輸出産業の活性化によって、再びGDP 2位、国際競争力1位になれると考えています

（補足説明）

従来のように種々の課題解決の手法として「一課題追求型」ですと、例えば「少子化対策」や「過疎化対策」と声高に叫び、可能な支援策を講じても、改善するどころか、何十年も経過してもどんどん悪化をするばかりです。

しかも、自治体の多くは財政難に陥り、国民の多くが貧困に喘いでいます。

また中国マネー（日本法人を通じての献金額が大きいと考えています。）により、太陽光パネルをはじめ日本の再エネ市場を奪われ、（東芝・日立等の日本企業が撤退している）、NECや富士通のパソコン事業が中国企業レノボに買収され、来年度に発売予定のBYDの軽のEVが日本で販売されると、高度にAI化された技術：24時間全自動の工場「ダーク工場」により、日本市場を席卷し、日本の車メーカーのリストラが加速すると考えています。

GDPが（2位）→5位、国際競争力が（1位）→38位で、数十年前では中国の4倍のGDPが、昨今では中国の1/4のGDPになっており、凋落の要因は、企業献金→補助金（有効に使っていない）の構図なので、企業献金廃止が必要ですが、一方では、一課題追求型を脱して「社会システムの転換」が必要であり、それが「スロー社会の構築」であり、少子化、過疎化、空家、シャッター街、貧困化等の、ありとあらゆる課題が同時に解決します。

一億総中流の時代が間もなくやってきます。

「低速自動運転と人が運転するモード切替車」

(従来と全く変わらず)

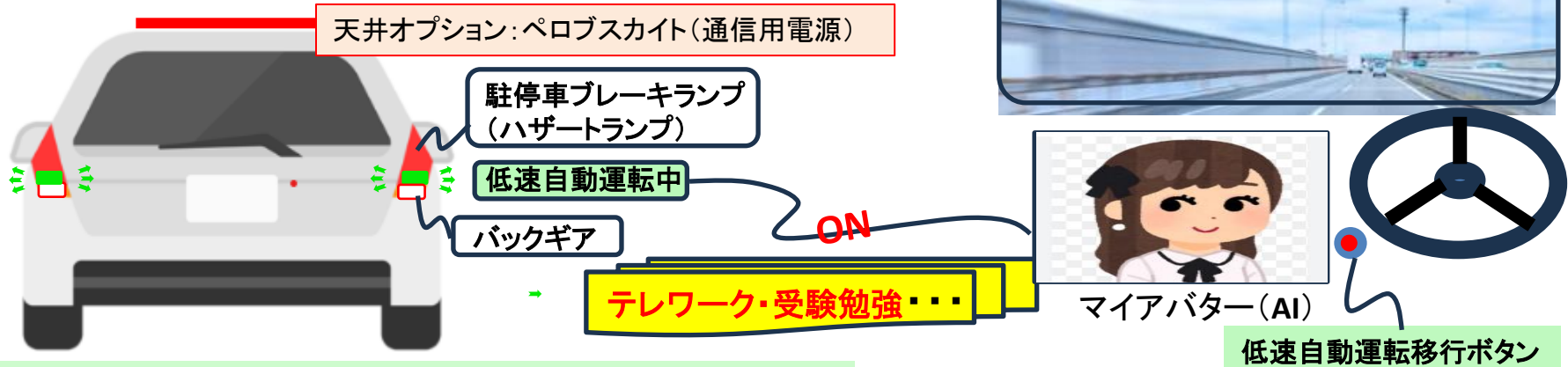
<低速自動運転の走行方法>

1. 人が乗っての低速自動運転走行の場合

低速自動運転移行ボタンをONすると、マイアバター(AI)が登場し、
AI「どちらへ行きますか」→人「〇〇へお願い」→AI「約3時間で到着です。」→人「1時間後に自分が運転すれば何時につく？」→AI「1.5時間程で到着です。」→人「1時間後に自分が運転するので、もしも寝ていたら起こしてくれ」→AI「了解しました。それでは出発します。」

2. 人が乗っていない低速自動運転の場合

マイアバター(AI)に電話を入れると、AIが起動し、上記のように電話でのやりとりをして、行先や行先の変更指示等を行う。



<モード切替方法>

1. 人が運転するモードから低速自動運転に切替え

速度を6km以下にした上で、低速自動運転移行ボタンを押すと、低速自動運転に切り替わる。

2. 低速自動運転から人が運転するモードに切り替え

ハンドルを両手で握った上で、アクセルペダル又はブレーキペダルを踏むと、人が運転するモードに切り替わる。

(運転席のイメージ)

従来の車と異なるところは、大画面モニターが付帯し、低速自動運転移行ボタンが付帯しているところ。



郊外（田舎）は不便なため生活しずらく、市街地（都会）は便利だが家賃が高く核家族化も進んでいるので、数多くの問題（過疎化、少子化、空き家、休耕田畑、公共交通縮小、シャッター街）が発生しますが、スロー社会により、誰でも24時間充実した移動（*）が可能になり、安くて広い家で、大家族で住めるため、郊外（田舎）が生活しやすくなります。

市街地で暮らせば、少人数の核家族で一家族あたり10万円程かかりますが、田舎の空き家を改装すれば、大家族で10万程度のローンで暮らせます。また、食費をはじめ、衣類や各種のモノで使いまわしが効き、経費が浮くので、余剰資金が生まれ、誰でもが恋愛・結婚・子育てが楽しめるようになります。

さらに自動介護システムによって、介護負担が物理的にも金銭的にも負担が大幅に減じるので、被介護者も誰気兼ねなく自由に移動し、マイアバター（AI）と楽しい会話をして暮らすことができ、夕食の団欒のときだけ、大家族で手があるので、家に挙げてもらい、昔ながらの大家族そろっての食事ができます。

（以下のURLのANNEX-5を参照して下さい。）

（*）24時間充実した移動とは、

電車やバスで通勤すれば、30分～1時間で目的地に到着しますが、仕事ができないばかりか疲れます、水陸両用の低速自動運転車では、マイアバター（AI）を搭載し、Aiとの会話による効率の良い仕事ができ、例えば通勤に4時間かかるとすると、行きは朝食をとりながらテレワーク、会社では2時間程度の情報交換や会議をこなし、帰路では仕事があればテレワークでこなし、その後はお酒や夕食をとりながら、映画を見て、楽しく帰宅することができます。



従来は、誰かの介護のために、仕事をやめたり、趣味を諦めたりしていましたが、おむつ交換&トイレ介助が排除され、またドライブスルーの店舗が増えて、自動介護システムによって自分で買い物ができるようになり、手が一切かからなくなるので、遠い親戚の被介護者を受け入れることができ、老々介護や独居老人やアパートを借りられない問題などが解決します。

断続航行 水陸両用低速自動運転車のイメージ

世界一周

家をもたず
海岸や海で暮
らす人が続出

海や湖を直線距離で結ぶことができるので、島の方が住みやすくなる
(速度が3倍)

ペロブスカイト
(太陽光発電)

復興住宅

主に通信用(マイアバター自動通信)

マイアバター用大画面モニター

(水陸両用車)

陸上は人がいるので6 km、
海上は18 km

釣竿固定部(食いつき検知センサー付帯)

(側面)

安全釣船

油圧式
ばね式

衝突安全

x2

AI制御:推進スクリュー

x3

タイヤ

災害安全

全固体電池

柔らかい部材
&ダンパー機構

AI

二重の回転数差で
方向制御を行なう。

(底側)

AI

揺れをリアルタイムで検知し、より戻しを行い、揺れを防止

走行 & 航行距離1200km

ガソリンe-power + 全固体電池

船酔防止

x3

AI制御:酔い防止スクリュー

